

「桜川のサクラ」

一千年の歴史を誇る

桜の名所

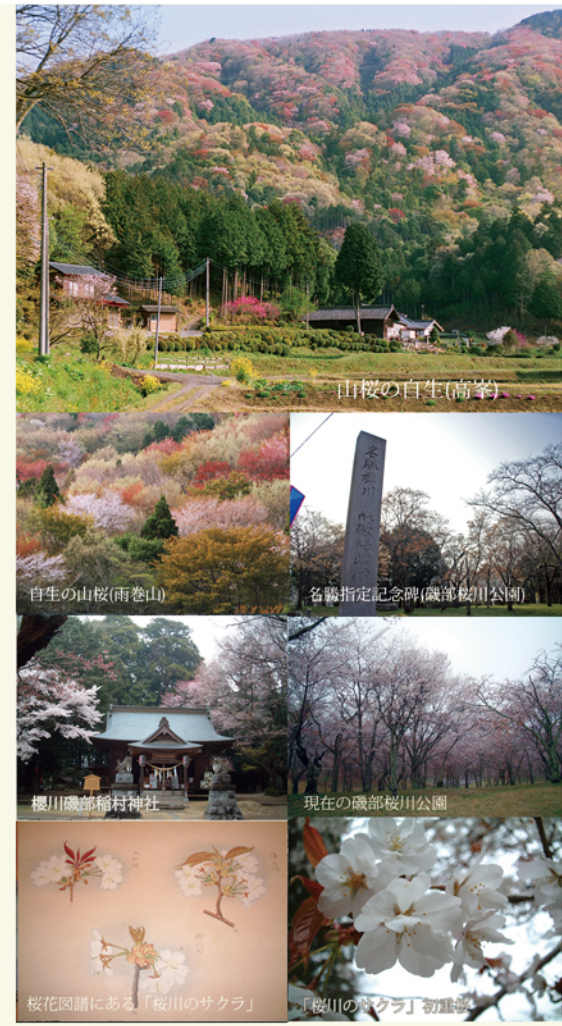
桜川(桜川市岩瀬地区)は、古来より「西の吉野、東の桜川」と並び称される桜の名所でした。

平安時代の歌聖 紀貫之が歌に詠み、室町時代には幽玄能の大家世阿弥作謡曲「桜川」の舞台にもなっています。

江戸時代には歴代将軍により、隅田川堤はじめ江戸各所に移植されました。特に水戸光圀は、桜川磯部稲村神社を度々社参、この地のサクラを大変気に入り、持ち帰って借楽園前の小川に移植し、「桜川」と名付けるほどでした。

明治時代には旧岩瀬町出身の歌人であり文学者石倉翠葉氏がサクラの衰退を嘆き『桜川事蹟考』を出版。

これが礎となって、大正13年国指定「名勝」に、昭和49年には国の「天然記念物」に指定されています。

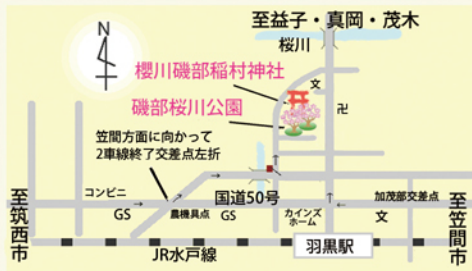


「桜川のサクラ」が見られるのは…

磯部桜川公園、桜川磯部稲村神社とその周辺です。また、桜川上流の高峰山や雨巻山、富谷山も自生の山桜が見事です。

山桜の見頃は…

早咲きのものもありますが、殆どがソメイヨシノよりやや遅れて咲きます。例年4月中旬頃見頃を迎えます。



電車でお越しの方：JR水戸線羽黒駅下車、タクシーで5分
お車でお越しの方
水戸方面より：国道50号線カインズホーム岩瀬店次の信号（「桜川のサクラ」の看板有り）を右折
小山方面より：国道50号線2車線道終了後最初の交差点を斜め方向に左折

サクラの豆知識

日本に自生する桜(自生種)はたった9種類(山桜・大山桜・霞桜・江戸彼岸・大島桜・豆桜・丁子桜・高嶺桜・深山桜)しかありません。中国には30種類以上あると言われるから、これと比べると少なく感じますが、実はソメイヨシノ(大島桜×江戸彼岸)に代表される園芸品種の桜の数は300とも400とも言われ、ダントツ世界一なのです。

現在日本の桜の8割はソメイヨシノと言われていますが、このソメイヨシノが生まれる江戸末期までは、サクラと言えば自生種の「山桜」のことを指していました。

自生種の桜は一本一本遺伝子が異なるため、花の色・形・開花時期も異なりますが、ソメイヨシノはたった1本の木から接ぎ木で増やされてきた、言ってみれば「クローン」のため、同じ気象条件の下ではほぼ同時に花を咲かせます。これを利用して、日本ではソメイヨシノを基準にした「サクラ前線」が生まれたというわけです。

これだけ日本全土に広がったソメイヨシノですが、成長の早さ故か60年と言われる短い寿命から、近年各地で枯死するものが目立ってきました。補植にまたソメイヨシノを使うのか、それとも他の品種を使うのか…画一的なサクラの風景から多様性を求めて、流れは後者にあるようです。

ところで、日本の国花が「山桜」だと知っていましたか？
実は「桜川のサクラ」も同じ山桜なのです。ソメイヨシノの下での賑やかな「花見」も良いですが、たまには万葉の昔から歌に詠まれてきたこの山桜の歴史や情緒を感じとって見る…「観桜」という気持ちでサクラを見てみるのも素敵では？

万葉のサクラを寿ぐ
ことば

天然記念物「桜川のサクラ」指定11種

